清水港新興津地区で

うみの現場見学会 開催

学生ら 27 人が参加！　労働環境改善が進む海上工事の実態を知る機会に

日本埋立浚渫協会は2025年10月15日、第32回「うみの現場見学会」を静岡市清水区の清水港新興津地区で開きました。東海大学海洋学部海洋理工学科の渡邉啓介教授と学部生21人、大学院生5人の計27人を招き、既存の岸壁を延伸するための土留工の実施に向けた準備が進む現場周辺と作業船を案内。海上工事の魅力やスケールの大きさ、労働環境の改善が進む現場の実態について理解を深めてもらう機会としました。普段見ることのできない作業船内を見て回り、最先端の施工システムや乗員の居住環境に配慮した施設に関心を寄せていました。

清水港の新興津地区では、自動車部品や産業機械、電気機器などのコンテナ貨物、製紙原料となる輸入パルプ貨物の取り扱いが増加しています。寄港する船舶の大型化なども進み、岸壁の混雑や延長不足に伴う非効率な輸送が深刻化していることから、課題解決に向けて岸壁延伸事業が現在進められています。

今回、見学会を開催したのは、国土交通省中部地方整備局が発注し、不動テトラが施工する「令和6年度清水港新興津地区岸壁(-15m)土留外工事」(工期2025年3月25日～12月1日)の現場です。対象構造物の撤去工、被覆・根固工、土留工を行います。

見学会の冒頭、日本埋立浚渫協会の山下朋之企画広報委員長は「日ごろ、地域の皆さんには海の工事をなかなかご覧いただけないことから、うみの現場見学会を開いています。インフラの重要性を理解し、技術者・技能者の仕事ぶりを見ることで、建設産業に興味を持ってもらいたいです」と述べました。

続いて中部地方整備局清水港湾事務所の出水孝征所長が清水港の歴史や港湾整備の社会的効果などを説明しました。

不動テトラの担当者による工事概要や施工技術の説明の後、現場に移動した学生らは岸壁周辺の施工状況と作業船を見学しました。400t吊全旋回式クレーンを搭載した浚渫船兼起重機船内では最新の設備などを間近に見ながら、工事関係者の話に耳を傾けていました。

見学後、学生や教員から港湾工事での波対策や環境対応など、さまざまな質問が寄せられました。

清水港新興津地区の位置図

最新システムが導入された操作室で

清水区内の会議室で事前説明を聞いた

既設構造物が一部撤去された岸壁